

「特別の教科 道徳」の目標は、どのように設定されていますか。

★ ポイント

- 1 「特別の教科 道徳」の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」こととし、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同一にしています。
- 2 「道徳的価値の自覚及び人間の生き方についての考えを深める」ことを学習活動として具体化し、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間の生き方についての考えを深める学習」と改めました。
- 3 「道徳的実践力を育成する」ことを、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と具体化しました。

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

1 最終的な目標は、「道徳性の育成」にあります。

道徳性とは・・・人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的行為を主体的に実践するための内面的な資質・能力のことを指しています。

これまで道徳の時間の目標を道徳的実践力の育成としていましたが、育成すべき資質・能力を明確にするために道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度として示しました。

道徳性の様相	概 要	
道 徳 的 判 断 力	・ それぞれの場面において、善悪を判断する能力 ・ 人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力 ・ 的確な道徳的判断力をもつことで、それぞれの場面において場面に応じた道徳的行為が可能	
道 徳 的 心 情	・ 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情 ・ 人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情で、道徳的行為への動機として強く作用するもの	
道徳的実践意欲	道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性	道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意思の働き
道 徳 的 態 度		具体的な道徳的行為への身構え

道徳性は、一人一人の生徒が道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるなど道徳的価値を自覚し、人間の生き方についての考えを深めることを通して、日常生活あるいは今後会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質（図1）を意味しています。

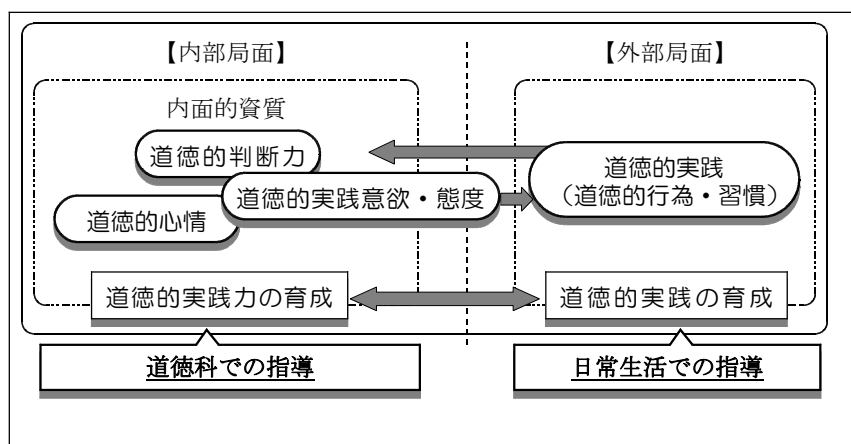


図1 道徳性における内面的資質

2 道徳的諸価値を理解するとは…

道徳的価値の意義や大切さを理解するとともに、道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気づき、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにすることです。

価値理解…道徳的価値は大切であると理解すること
 人間理解…道徳的価値は大切ではあるが、実現は難しいと理解すること
 他者理解…道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があると理解すること

3 自己を見つめるとは…

小学校において育成される道徳性の基礎を踏まえ、よりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどのように生きべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、生徒自身が、自己を見つめることによって、徐々に自ら人間としての生き方を育んでいくことです。

4 物事を広い視野から多面的・多角的に考えるとは…

生徒が諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目させ、それを手掛かりにして、考察させて、様々な角度から総合的に考察することの大切さや、いかに生きるかについて主体的に考えることの大切さに気付かせることです。

5 人間の生き方についての考えを深めるとは…

生徒が人間について深く理解することと、これを鏡にして行為の主体としての自己を深く見つめることとの接点に、生き方についての深い自覚が生まれていくことです。

【道徳科における指導上の留意点】

- ・ 教師が一方的に特定の価値観を押し付けたり、多くの道徳的価値を含む事象としての単なる生活経験の話合いなどの表面的な指導になったりすることがないようにしましょう。
- ・ 一人一人の教師が道徳の授業の特質についての理解を深め、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫につながるものにしましょう。